

問 企画振興課 総合企画係 内線2212

平成30年2月28日から3月20日まで行った意見公募手続でいただいた意見を反映させて作成した「鬼北町地域公共交通網形成計画」の素案について、3月28日に開催した「第3回鬼北町地域公共交通会議」において承認されました。(広報きほく5月号掲載)その概要についてお知らせします。

なお、計画については、町ホームページに掲載しています。

地域公共交通の現状

- ◆本町には、鉄道、路線バス、スクールバス、その他の公共交通サービスとして、外出支援事業や介護タクシー事業がある。
- ◆鉄道は「JR予土線」、路線バスは「宇和島自動車株式会社」による3路線、「高知高陵交通株式会社」による1路線、町営バスによる2路線がある。
- ◆JR予土線は利用者数の低迷が問題視されているため、愛媛県、宇和島市、松野町、鬼北町で「愛媛県予土線利用促進対策協議会」を組織し、利用促進事業を行っている。
- ◆愛治線および屋敷線の2路線とも、利用者の多くは自家用車の運転をしない高齢者で、利用目的は通院や買い物となっており、2路線とも年々利用者数が減少している。

住民等の意向や利用実態

- ◆買い物・通院での公共交通の利用率は著しく低い。
- ◆買い物・通院での公共交通の利用ニーズと運行ダイヤのミスマッチ。
- ◆利用できる近接のバス停、JR駅の認知度は高いが利用率は低い。
- ◆高齢化社会での公共交通やタクシーは利用料金が大きく、負担が大きい。
- ◆公共交通機関の利用率が約1割と低い状況の中、多くの人は公共交通での移動に不便をあまり感じていない。
- ◆民間バスの運営が維持できない場合は、町営バスを増やす要望が約5割である。
- ◆収支率の悪い路線は予約制にするなど、コスト削減への取り組みを要望する。
- ◆将来年をとれば、車の運転等から公共交通の利用への転換は約70%、その年齢は75歳以上である。
- ◆バス停の設置と利用料金を安価にする工夫
- ◆近永地域での周遊する小型バスの運行ニーズ
- ◆通学時、部活動に合った運行ダイヤ
- ◆今後の高齢化の加速化を見据えた福祉支援事業との連携

地域の現状

- ◆人口減少、高齢化率増による地域社会への影響が大きく、交通事業者の企業運営に影響を与えている。
- ◆近永地域に居住人口、商業・医療・福祉施設が集中している。
- ◆通勤通学での公共交通利用率が著しく低い。
- ◆自動車保有台数は5,655台で、一世帯当たり1台である。
- ◆65歳以上の運転免許証保有率が35%となっており、愛媛県平均の24.5%より約10%高い。
- ◆入込観光客の交通手段は「自家用車」が約9割を超えている。

交通事業者に関する問題

- ◆利用者減による事業の継続困難

公共交通に関する問題

- ◆鉄道は通学と観光利用、バスは普段の移動手段とする役割分担
- ◆路線バスの運行ダイヤの見直し
- ◆公共交通空白(不便)地域への対応
- ◆バス路線、タクシー事業者の高齢化と事業継承
- ◆スクールバスの活用と役割分担
- ◆利用者のニーズに合わせたバス事業者の連携

